

都市再生整備計画 事後評価シート

花巻中央地区

平成24年3月

花巻市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岩手県		市町村名	花巻市		地区名	花巻中央地区			面積	950ha	
交付期間	平成19年度～平成23年度		事後評価実施時期	平成23年度		交付対象事業費	3,501百万円	国費率	0.4			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	道路(都市計画道路):下巾鍋倉線、山の神藤沢町線 道路(市道):瀬畑口下根子線、実相寺2号線、山の神飯豊線								
			提案事業	地域創造支援事業:都市公園トイレ水洗化事業、緑化木植栽事業、下水道整備事業、排水路整備事業								
	当初計画から削除した事業		基幹事業	なし		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			提案事業	都市公園トイレ水洗化事業		事業予定箇所(公園)までの公共下水道整備が遅れており、事業期間内までの整備が見込まれないことから事業量を減するものである。			居住環境の向上から居住人口の増加に関連するが、他の要因で人口が増加する可能性もあるため、指標及び数値目標は据え置く。			
	新たに追加した事業		提案事業	緑化木植栽事業		既存歩道がマウントアップ構造であり歩道バリアフリー整備計画に基づいてセミフラットの調整を図る必要があったため取りやめた。			居住環境の向上から居住人口の増加に関連するが、他の要因で人口が増加する可能性もあるため、指標及び数値目標は据え置く。			
			基幹事業	なし								
交付期間の変更		当初変更	平成19年度～平成23年度 なし		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			なし				
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	指標1	移動時間	分	12	H18	9	H23	9	○	あり なし	山の神藤沢町線と山の神桜木町線の整備事業実施によりアクセス距離が短縮し、時間短縮につながった。	平成24年9月
	指標2	居住人口の増加	人	36,353	H18	36,400	H23	36,210	×	あり なし	数値目標は達成しなかったが、旧花巻市の人口が減少傾向にある中、花巻地区については、下げ止まりが見られ、一定の効果はあった。	平成24年8月
指標3	歩行者数等	人	3,189	H18	3,200	H23	3,552	○	あり なし	上町花城町線整備事業によるアクセス性向上とマンション建設事業による需要増加が、歩行者等の増加につながった。	平成24年6月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度		モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期
	その他の数値指標1	区域内への居住人口の集中	%	50	H17			51			街路事業によるアクセス性向上とマンション建設事業等による需要増加が区域内の人口集中につながったと考えられる。	平成24年8月
	その他の数値指標2	駅周辺の人口の増加	人	12,325	H17			12,599			下巾鍋倉線の整備や駅前商業施設整備事業等による駅周辺の拠点性の向上が人口の増加につながったと考えられる。	平成24年8月
	その他の数値指標3	下巾鍋倉線周辺の居住人口の増加	人	13,301	H17			13,937			下巾鍋倉線により花巻駅東西のアクセス性向上による周辺の居住環境向上が人口の増加につながったと考えられる。	平成24年8月
その他の数値指標4	中心市街地の休日の歩行者数	人	1,753	H18			1,808			市道整備事業や道路整備事業等により回遊性が向上し、歩行者増加につながったと考えられる。	平成24年6月	
4) 定性的な効果発現状況	・下巾鍋倉線の整備により狭隘な橋梁の架け替えが行われ、事故が起こりやすい環境を解消でき、車両通行の安全性が向上した。特に、周辺は通学路となっているため、通学路の安全性が向上し、小学生や保護者の安心が得られた。 ・本来一級市道として主要な役割を果たすべき下巾鍋倉線が整備されたことで、本来の都市の骨格としての機能が強化された。 ・公園のトイレ水洗化により周辺住民の居住環境が改善した。											
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	住民参加プロセス	・まちづくり構想策定支援事業において、地権者会の活動の支援を行った。 ・都市計画道路見直し検討に関する意見交換会を実施した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				市は、助言や関連情報の提供、会議場所の提供等ソフト面で活動を積極的に支援する。			
持続的なまちづくり体制の構築	・地権者が主体となって花巻南地区を取り巻くまちづくりについて検討する組織づくりに着手し、検討会を開催した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				市は、助言や関連情報の提供、会議場所の提供等ソフト面で活動を積極的に支援する。				

様式2-2 地区の概要

花巻中央地区(岩手県花巻市) 都市再生整備計画の成果概要

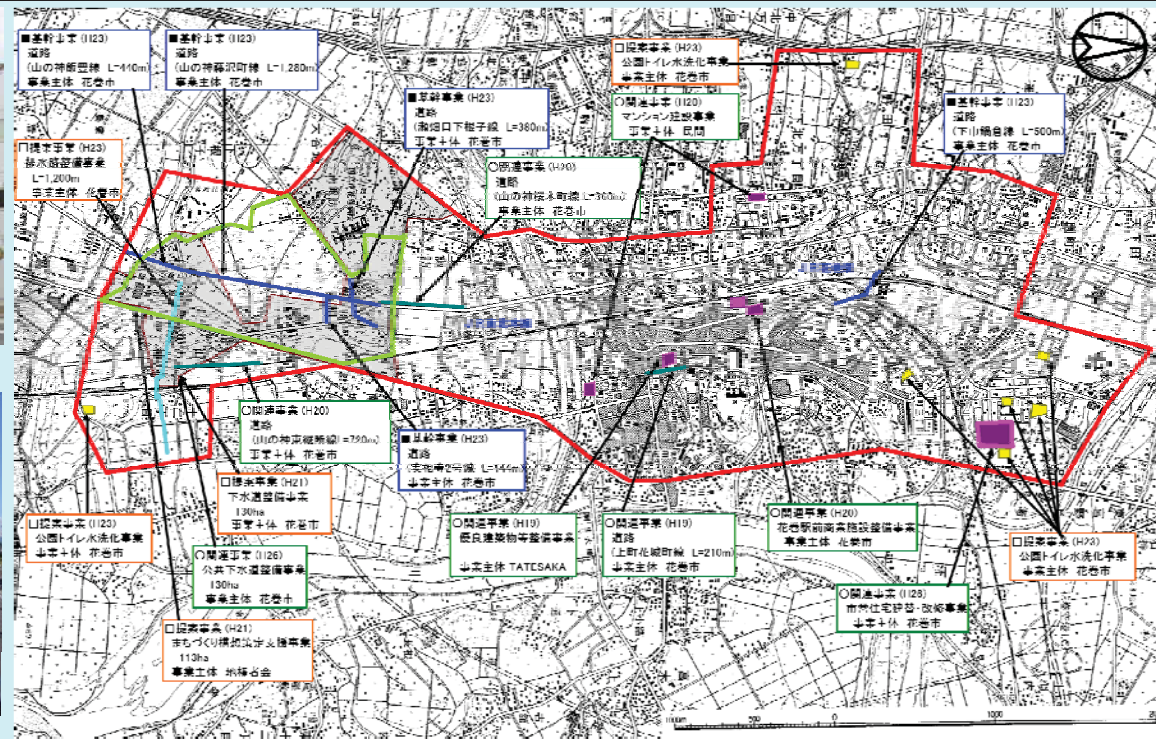
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	目標値	従前値	目標値	従前値	目標値
大目標 花巻駅周辺と中心市街地及び北上中部地方拠点都市地域(花巻南産業文化交流拠点)が連携して活力と賑わいあふれ、定住、交流の一体感のあるまちづくりのため、道路網のネットワークの形成と都市機能の充実、環境整備により、魅力あるイーハートブの街づくりを推進する。 目標1 花巻駅周辺の整備(街路、商業施設)により、賑わいと活気を戻し、中心市街地と相互に連携しにぎわいを再生する。 目標2 居住環境を整備し、安心、快適、安全、円滑な市街地を形成する。 目標3 花巻南産業文化交流拠点区域の良好な居住環境の形成のため、道路整備を中心としてまちづくりの推進を図る。	移動時間	分	12	H18	9	H23	9	H23
	居住人口の増加	人	36,353	H18	36,400	H23	36,210	H23
	歩行者数等	人	3,189	H18	3,200	H23	3,552	H23
	区域内への居住人口の集中	%	50	H17	-	-	51	H23
	駅周辺の人口の増加	人	12,325	H17	-	-	12,599	H23
	下町鍋倉線周辺の居住人口の増加	人	13,301	H17	-	-	13,937	H23
	中心市街地の休日の歩行者数	人	1,753	H18	-	-	1,808	H23



▲上町花城町線



▲瀬畑口下根子線



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 「中心市街地の再活性化に向けた都市機能の確保」に対しては、上町花城町線の整備と一体となった優良建築物等整備により中心市街地の賑わいが創出された他、下町鍋倉線の整備により、花巻西地区区画整理地から花巻駅までのアクセス性が向上し、東西間の交流が円滑となった。 一方で、事業が一部区間や区域に留まっており、道路のネットワーク性が十分とは言えない。また、花巻駅周辺と上町周辺の2拠点間の移動を活発化させる仕組みづくりや循環バスとの連携による歩行ネットワークの構築が必要である。 「南北で連携する一体感のあるまちづくり」に対しては、山の神桜木町線、山の神藤沢町線の整備により基盤が整備されたが、整備が部分的であるため、より連続的な整備が必要である。 「定住と交流が促進されるまちづくり」に対しては、花巻南産業文化交流拠点区域の街路整備、下水道事業等により徐々に形成されつつある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 未達成の指標「居住人口の増加」に向け、中心市街地の賑わいの再生に向けた取組と連携し、安心・安全で快適な居住環境の整備に努めることが必要である。 具体的には、本計画で整備した道路のネットワーク性の効果をさらに高めるため、中心市街地の賑わいの再生に向け、都市拠点間のネットワーク性や歩行空間の回遊性を向上させる道路整備を実施することが望まれる。具体的には、上町花城町線(第2工区)や城内大通り線(万代橋～花巻病院前)等の都市計画道路の整備を実施する。 また、より安全で快適に道路を利用できるよう現状の道路をベースに、歩道のバリアフリー化や融雪事業の早期完了、電線地中化等を図る。 中心市街地に役所や病院等を中心とした主要な公共施設を集積させ、そこに訪れるためのアクセス改善を推進する。 中心市街地にある県立病院跡地等の空き地を効果的に活用するため、地域コミュニティと検討・協議できる「場」を設ける。 これらの取組は、人的ネットワークを大切に住民の自主的なまちづくり体制を構築して行う。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- ~~添付様式9 有識者からの意見聴取~~

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	下巾鍋倉線	1,500	500m	2,276	500m	橋梁実施設計の成果及びJR協議の結果により事業費の見直しの必要が生じたため事業費増	事業内容に変更はないため指標及び数値目標は据え置く。		●
	山の神藤沢町線	1,170	1280m	1,170	1280m	なし	-		●
	瀬畑口下根子線	80	380m	80	380m	なし	-		●
	実相寺2号線	30	144m	40	144m	事業完了による精算に伴い事業費増	事業内容に変更はないため指標及び数値目標は据え置く。	●	
	山の神飯豊線	300	440m	300	440m	なし	-		●
公園									
古都及び緑地 保全事業									
河川									
下水道									
駐車場有効利 用システム									
地域生活基盤 施設									
高質空間形成 施設									
高次都市施設									
既存建造物活 用事業									
土地区画整理 事業									
市街地再開 発事業									
住宅街区整備 事業									
地区再開 発事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
バリアフリー環境整備促進事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	都市公園トイレ水洗化事業	57	9か所	16	7か所	事業箇所減	居住環境の向上から居住人口の増加に関連するが、他の要因で人口が増加する可能性もあるため、指標及び数値目標は据え置く。		●
	緑化木植栽事業	10	2000m	0	0m	事業中止	居住環境の向上から居住人口の増加に関連するが、他の要因で人口が増加する可能性もあるため、指標及び数値目標は据え置く。		
	下水道整備事業	930	130ha	94	130ha	事業費減	事業内容に変更はないため指標及び数値目標は据え置く。		●
	排水路整備事業	60	1200m	147	1200m	事業費増	事業内容に変更はないため指標及び数値目標は据え置く。		●
事業活用調査	まちづくり構想策定支援事業	-	なし	10	113ha	平成21年に計画変更して追加	居住環境の向上から居住人口の増加に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
まちづくり活動 推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	に変更はないため指標及び数値目標			
花巻駅前商業施設整備事業		JR花巻駅前	1,800	1,800	H19~H20	H19~H21	平成20年にはすでに竣工し、花巻駅周辺の居住人口の増加に寄与している。		
市道整備事業		花南地区2路線	497	497	H16~H20	H16~H20	平成20年にはすでに竣工し、中心部とのネットワーク性向上に寄与している。		
街路整備事業		上町花城町線整備事業	1,868	1,868	H12~H19	H12~H19	平成19年にはすでに竣工し、中心市街地へのアクセス性や回遊性の向上等に寄与している。		
優良建築物等整備事業		花城町	2,350	2,350	H17~H19	H17~H19	平成19年にはすでに竣工し、中心市街地周辺の居住人口の増加に寄与している。		
市営住宅建替・改修事業		本館	1,413	1,413	H18~H26	H18~H26	計画9棟のうち4棟の完成で4/9(44.4%)完了。		
マンション建設事業		西大通り、豊沢町	2,000	2,000	H18~H20	H18~H20	平成20年にはすでに竣工し、中心部や駅周辺の居住人口増加に寄与している。		
公共下水道整備事業		花南地区一帯		4,556		H17~H26	事業は60%程度完了。		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	事後評価	あり	なし		
指標1	移動時間	分	山の神藤沢町線と山の神桜木町線が完了した時点における花巻駅から富士大学までの最短ルート(約4.5km)を平均速度30km/hで走行した際の移動時間	-	-	12	H18	9	H23	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定 見込み ●	9	事後評価	○	
指標2	居住人口	人	平成23年8月31日時点での住民基本台帳の花巻地区(平成18年合併前の旧花巻市の花巻地区)の人口	-	-	36,353	H17	36,400	H23	モニタリング		モニタリング			●
										事後評価	確定 見込み ●	36,210	事後評価	×	
指標3	歩行者数等	人	花巻市街地通行量及び交通量調査結果の歩行者と自転車とバイクの通行量の平日・休日の合計を24時間換算した値	-	-	3,189	H18	3,200	H23	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定 見込み ●	3,552	事後評価	○	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	山の神藤沢町線と山の神桜木町線の整備事業実施により、花巻駅から富士大学までの距離が短縮されるため、移動時間は短くなり、花巻市南部と中心部のネットワーク性が向上したと考えられる。	
指標2	事後評価の時点では数値目標に至っていないが、近年の減少傾向に歯止めがかかったことは評価できる。指標に関連する事業が完了すれば、1年以内には困難かもしれないが長期的には人口増加の可能性は期待できる。	
指標3	上町花城町線整備事業や優良建築物等整備事業等により、歩行環境の改善や回遊性の向上等の効果があり、歩行者数等の増加の効果があつた。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
 ※2 目標達成度の記入方法
 ○: 評価値が目標値を上回った場合
 △: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
 ×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	区域内への居住人口の集中	%	平成23年8月31日時点での住民基本台帳の旧花巻市の人口における花巻地区の割合を算出	-	-	50	H17	モニタリング		区域内への居住人口の集中は、コンパクトで賑わいがあり、安心、快適、安全、円滑な市街地形成の効果を補足的に評価できるため。	指標1と指標2を補完して、地区の賑わいの再生を説明する。
								事後評価	確定 見込み ●		
その他の数値指標2	駅周辺の居住人口の増加	人	平成23年8月31日時点での住民基本台帳の駅周辺(花巻駅を中心とした概ね1kmの範囲)の居住人口を算出	-	-	12,325	H17	モニタリング		下巾鍋倉線の道路整備事業により、花巻駅東西の地域分断が緩和されたと考えられ、賑わいのある、安心、快適、安全、円滑な市街地形成の効果を補足的に評価できるため。	指標2と指標3を補完して、地区の賑わいの再生を説明する。
								事後評価	確定 見込み ●		
その他の数値指標3	下巾鍋倉線周辺の人口の増加	人	平成23年8月31日時点での住民基本台帳の駅周辺(下巾鍋倉線を中心とした概ね1kmの範囲)の居住人口を算出	-	-	13,301	H17	モニタリング		下巾鍋倉線の道路整備事業により、花巻駅東西の地域分断が緩和されたと考えられ、賑わいのある、安心、快適、安全、円滑な市街地形成の効果を補足的に評価できるため。	指標2と指標3を補完して、地区の賑わいの再生を説明する。
								事後評価	確定 見込み ●		
その他の数値指標4	中心市街地の休日の歩行者数	人	花巻市街地通行量及び交通量調査結果(平成23年7月3日日曜、雨のち曇り)の①上町・マルカンデパート前、②吹張町・かんの靴店前、③鍛冶町・旧八百徳商店前、④末広町・宮沢新聞店前の4箇所での歩行者数の合計値	-	-	1,753	H18	モニタリング		中心市街地の賑わいを評価するためには、商店街の回遊性の向上を計測する必要がある。中心市街地の複数箇所における歩行者を計測することでこの効果を評価できる。	指標3を補完して、中心市街地の賑わいの再生や回遊性の効果発現を説明する。
								事後評価	確定 見込み ●		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

<ul style="list-style-type: none"> ・下巾鍋倉線の整備により狭隘な橋梁の架け替えが行われ、事故が起こりやすい環境を解消でき、車両通行の安全性が向上した。特に、周辺は通学路となっているため、通学路の安全性が向上し、小学生や保護者の安心が得られた。 ・一級市道として主要な役割を果たすべき下巾鍋倉線が整備されたことで、本来の都市の骨格としての機能が強化された。 ・都市公園のトイレ水洗化事業により周辺住民の居住環境が改善した。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等	
花巻南地区地方拠点都市整備事業推進地権者会議	予定どおり実施した	<ul style="list-style-type: none"> ・実施頻度：8回 ・実施期間：平成21年 ・実施結果：山の神藤沢町線沿線のまちづくりについての構想案を策定して、その結果を住民に周知した。 	今後も地権者会の活動の支援を行う。	
	予定はなかったが実施した			●
	予定したが実施できなかった (理由)			
都市計画道路見直し検討に関する住民意見交換会	予定どおり実施した	<ul style="list-style-type: none"> ・実施頻度：2回 ・実施期間：平成23年8月～平成24年3月 ・実施結果：都市計画道路見直しに関して、活発に意見が出され住民の地域に対する関心が高まった。 	今後も必要に応じて住民との意見交換会を開催する。	
	予定はなかったが実施した			●
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等	
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要		
地権者会によるまちづくり構想策定検討会	予定どおり実施した	<ul style="list-style-type: none"> ● 地権者が主体となって花巻南地区を取り巻くまちづくりについて検討する組織づくりに着手し、検討会を開催した。 	花巻南地区地方拠点都市整備事業推進地権者会議	市は、助言や関連情報の提供、会議場所の提供等ソフト面で活動を積極的に支援する。	
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由)				
	予定どおり実施した				
	予定はなかったが実施した				
	予定したが実施できなかった (理由)				

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	関係各課主幹級職員(都市整備課、道路建設課、道路維持課、建築住宅課、下水道課、商工労政課)	第1回 平成23年11月14日	建設部都市整備課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1	指標3	その他の数値指標1	その他の数値指標2
指標名		移動時間	歩行者数等	区域内への居住人口の集中	駅周辺の居住人口の増加
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度 総合所見	指標改善への貢献度 総合所見	指標改善への貢献度 総合所見	指標改善への貢献度 総合所見
基幹事業	道路(下巾鍋倉線)	◎	山の神藤沢町線と山の神桜木町線の整備事業実施により、花巻駅から富士大学までの距離が短縮されるため、移動時間は短くなり、花巻市南部と中心部のネットワーク性が向上したと考えられる。	◎	下巾鍋倉線の整備や駅前商業施設整備事業等による居住環境向上が駅周辺の居住人口の増加につながったと考えられる。
	道路(山の神藤沢町線)	◎		◎	
	道路(瀬畑口下根子線)	-		◎	
	道路(実相寺2号線)	-		◎	
	道路(山の神飯豊線)	-		◎	
提案事業	地域創造支援事業(都市公園トイレ水洗化事業)	-	-	◎	-
	地域創造支援事業(下水道整備事業)	-	-	◎	-
	地域創造支援事業(排水路整備事業)	-	-	◎	-
	事業活用調査(まちづくり構想策定支援事業)	-	-	◎	-
関連事業	花巻駅前商業施設整備事業	◎	◎	◎	◎
	市道整備事業	-	-	-	○
	街路整備事業	-	◎	-	○
	優良建築物等整備事業	-	◎	◎	◎
	市営住宅建替・改修事業	-	-	◎	◎
	マンション建設事業	-	◎	◎	◎
	公共下水道整備事業	-	-	○	○

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	花巻市南部と中心部のネットワークが強化されたため、これを活用し中心部との一体的なまちづくりを促進する。	中心市街地周辺の回遊性を活かし、商店街の意見を聞きつつ、歩行者等増進の取組を進める。	中心部の居住環境のPRを強化する。	東西のアクセス性が向上したことから、東西の住民の交流を活性化させ、駅を中心としたまちづくりを展開する。
-------	---	--	-------------------	---

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		その他の数値指標3		その他の数値指標4					
指標名		下巾鍋倉線周辺の人口の増加		中心市街地の休日の歩行者数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見				
基幹事業	道路(下巾鍋倉線)	◎	下巾鍋倉線により花巻駅東西のアクセス性が向上し、駅周辺の人口増加につながったと考えられる。	-	この数値は平成10年度以降、大きくは減少傾向にあるものの、事業前の平成18年度と比較して平成23年度は若干増加したことから、市道整備事業や街路整備事業が寄与したと考えられる。				
	道路(山の神藤沢町線)	-		-					
	道路(瀬畑口下根子線)	-		-					
	道路(実相寺2号線)	-		-					
	道路(山の神飯豊線)	-		-					
提案事業	地域創造支援事業(都市公園トイレ水洗化事業)	-		-					
	地域創造支援事業(下水道整備事業)	-		-					
	地域創造支援事業(排水路整備事業)	-		-					
	事業活用調査(まちづくり構想策定支援事業)	-		-					
関連事業	花巻駅前商業施設整備事業	◎		-					
	市道整備事業	○		○					
	街路整備事業	○		○					
	優良建築物等整備事業	◎		-					
	市営住宅建替・改修事業	◎		-					
	マンション建設事業	◎		-					
	公共下水道整備事業	○		-					

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	東西のアクセス性が向上したことから、東西の住民の交流を活性化させ、駅を中心としたまちづくりを展開する。	商店街と連携し、中心市街地の賑わいの再生に向けた取組を強化する。また、中心部へのアクセス性の向上や公共交通機関の利便性向上に努める。		
-------	---	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2													
指標名		居住人口の増加													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類		
基幹事業	道路(下巾鍋倉線)	△	数値目標は達成しなかったが、旧花巻市の全体の人口が減少傾向にある中、花巻地区については、下げ止まりが見られ、一定の効果はあった。	Ⅲ											
	道路(山の神藤沢町線)	△													
	道路(瀬畑口下根子線)	△													
	道路(実相寺2号線)	△													
	道路(山の神飯豊線)	△													
提案事業	地域創造支援事業(都市公園トイレ水洗化事業)	△													
	地域創造支援事業(下水道整備事業)	△													
	地域創造支援事業(排水路整備事業)	△													
	事業活用調査(まちづくり構想策定支援事業)	△													
関連事業	花巻駅前商業施設整備事業	△													
	市道整備事業	-													
	街路整備事業	-													
	優良建築物等整備事業	△													
	市営住宅建替・改修事業	△													
	マンション建設事業	△													
	公共下水道整備事業	△													

※目標未達成への影響度
 ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ:内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ:外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ:外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	中心市街地の賑わいの再生に向けた取組と連携し、安心・安全で快適な居住環境の整備に努める。			
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	関係各課主幹級職員(都市整備課、道路建設課、道路維持課、建築住宅課、下水道課、商工労政課)	第1回 平成23年11月14日	建設部都市整備課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
中心市街地の再活性化に向けた都市機能の確保が必要	上町花城町線の整備と一体となった優良建築物等整備により、中心市街地の賑わいが創出された。下巾鍋倉線の整備により花巻西地区区画整理地から花巻駅周辺までのアクセス性が向上し、東西間の交流が円滑となった。	・賑わい空間の創出において、事業が一部区間や区域で留まっており、中心市街地の賑わいの再生を達成する道路としてのネットワークが十分とは言えない。 ・東西の交流が円滑になった花巻駅周辺と、質の高い都市空間が形成され賑わい空間を創出しつつある上町周辺の中心市街地の事業効果が発現されているが、2拠点間の人の動きを活発化させる一体的な仕組みづくりが必要である。 ・歩行者の増加に向けて、歩道整備(新設・バリアフリー等)や循環バスとの連携による歩行ネットワークの構築が必要である。	
南北で連携する一体感のあるまちづくりが必要	山の神桜木町線、山の神藤沢町線の整備により、国道4号を補完する道路網が整備され、中心市街地と北上方面へのアクセス性が向上し、南北で連携するまちづくりを支える基盤が整備された。	部分的に質が高く整備された街路について、人の動きに対応した連続的な整備が必要である。	
定住と交流が促進されるまちづくりが必要	花巻南産業文化交流拠点区域の街路整備、下水道事業により定住と交流が促進されるまちづくりが徐々に形成されつつある。	なし	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	定住と交流が促進されるまちづくりの継続	<ul style="list-style-type: none"> ・主たる基盤整備(ハード面)は充実してきているが、今後はハードの活用促進や工夫などソフト面の取組みが重要。 ・宿泊客も含め観光客を市街地へ誘導する。 ・定住促進に向けた基盤整備に取り組む。 ・区域内への居住に向けたPR強化を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街でのまつりやイベント ・宮沢賢治ゆかりの地などまちなかにある観光資源の活用 ・まちあるきマップの作成・配布 ・街路や下水道等の基盤整備 ・中心部居住推進に向けたパンフレットの配布拡大や広報掲載等によるPR強化
	安全で快適な道路空間の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に強いまちに向け、道路の安全性を高める。 ・また、現状の道路をベースにより安全で快適に利用できるよう整備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊沢橋架替事業 ・上町成田線(豊沢町地内)電線地中化 ・歩道融雪事業の早期完了 ・歩道のバリアフリー化

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	まちづくりを推進する道路のネットワーク性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の賑わいの再生に向け、都市拠点間のネットワーク性や歩行空間の回遊性を向上させる道路整備を実施する。 ・中心市街地に役所や病院等を中心とした主要な公共施設を集積させ、そこに訪れるためのアクセス改善を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上町花城町線(第2工区)の整備 ・城内大通り線(万代橋～花巻病院前)の整備 ・歩行者用サイン整備 ・循環バスの利便性向上・利用促進
	住民主導のまちづくり体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・人的ネットワークを大切に自主的なまちづくりを継続していく。 ・北上川の氾濫や地震に関する備えや防災を推進する。 ・都市公園のトイレや街路等の維持管理を住民参加で行う。市はそのためのきっかけづくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「中心商店街顔づくり交付金」による支援 ・住民を交えた防災訓練の実施 ・街路の花植え活動の補助・サポート ・防犯まちあるきの実施 ・地域コミュニティと検討・協議できる「場」を設ける。

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画				
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項		
指標1	移動時間	分	12	H18	9	H23	確定	●	9	○	あり	→	平成24年9月	山の神藤沢町線と山の神桜木町線を通る花巻駅から富士大学までの最短ルート(約4.5km)を平均速度30km/hで走行した際の移動時間	
							見込み				なし				
指標2	居住人口の増加	人	36,353	H18	36,400	H23	確定	●	36,210	×	あり	→	平成24年8月	住民基本台帳の花巻地区(平成18年合併前の旧花巻市の花巻地区)の人口を用いて、平成24年度の値を確定値とする。	
							見込み				なし ●				
指標3	歩行者数等	人	3,189	H18	3,200	H23	確定	●	3,552	○	あり	→	平成24年6月	「平成24年度 花巻市街地通行量及び交通量調査結果」(花巻商工会議所)の歩行者と自転車とバイクの通行量の平日・休日の合計を24時間換算した値を用いて、平成24年度の確定値とする。	
							見込み				なし				
その他の数値指標1	区域内への居住人口の集中	%	50	H17	/	/	確定	●	51	/	あり	→	平成24年8月	住民基本台帳の旧花巻市の人口における花巻地区の割合を算出し、その値をもって確定値とする。	
							見込み				なし				
その他の数値指標2	駅周辺の居住人口の増加	人	12,325	H17	/	/	確定	●	12,599	/	あり	→	平成24年8月	住民基本台帳の駅周辺(花巻駅を中心とした概ね1kmの範囲)の居住人口を算出し、その値をもって確定値とする。	
							見込み				なし				
その他の数値指標3	下巾鍋倉線周辺の居住人口の増加	人	13,301	H17	/	/	確定	●	13,937	/	あり	→	平成24年8月	住民基本台帳の駅周辺(下巾鍋倉線を中心とした概ね1kmの範囲)の居住人口を算出し、その値をもって確定値とする。	
							見込み				なし				
その他の数値指標4	中心市街地の休日の歩行者数	人	1753	H18	/	/	確定	●	1,808	/	あり	→	平成24年6月	花巻市街地通行量及び交通量調査結果の①上町・マルカンデパート前、②吹張町・かんの靴店前、③鍛冶町・旧八百徳商店前、④末広町・宮沢新聞店前の4箇所での歩行者数の合計値を算出し、その値をもって確定値とする。	
							見込み				なし				

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		居住人口の効果の影響範囲を見極めて計測する。
	うまく いかなかった点	指標2の「居住人口の増加」は、居住人口の計測範囲が広範囲であったため、効果が把握しにくかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		顕著に影響が現れる数値を指標として設定することが望ましい。
	うまく いかなかった点	・指標3の「歩行者数等」は、計測箇所が1地点で中心市街地における面的な歩行者等の動きを捉えにくい指標となってしまった。 ・目標2の「安心、快適、安全、円滑な市街地の形成」の評価について「安心、安全」が十分評価できない指標であった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	地権者会を開催することにより、住民自らがまちづくりを考える機運が高まった。	住民参加はまちづくり事業を円滑にするうえで有効である。今後は、この気運を継続するため、ソフト的なサポートを行っていくことが望ましい。
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		指標の効果をモニタリングし、目標値の達成状況を確認することが望ましい。
	うまく いかなかった点	設定した指標についてモニタリングを実施すれば、事業の進捗状況や効果を確認できた他、より早い段階で指標の適切性を見直し検討することができたと思われる。	
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	花巻市のホームページに掲載	平成23年12月7日(水) ～12月21日(水)	平成23年12月7日(水) ～12月21日(水)	担当者へ持参するか、 電話、ファックス。	花巻市建設部都市整 備課
広報掲載・回覧・個別配布	広報とFM花巻で市のホーム ページ及び窓口で公表してい る旨を掲載、放送。	平成23年12月1日号広報。 平成23年12月12日放送。	平成23年12月7日(水) ～12月21日(水)		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	窓口で閲覧	平成23年12月7日(水) ～12月21日(水)	平成23年12月7日(水) ～12月21日(水)		

住民の意見	・特になし				
-------	-------	--	--	--	--

(6) 都市再生整備計画評価委員会の審議

添付様式8 都市再生整備計画評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	三宅 諭 岩手大学農学部 准教授	第1回 平成24年1月12日 (木)	都市整備課 (社会資本整備総合交付金担当課)	花巻中央地区都市再生整備計画評価委員会設置要綱	独自設置
その他の委員	花南地区コミュニティ会議会長 小原 守 花北地区コミュニティ協議会会長 似内 久展 花巻中央地区コミュニティ会議会長 福岡勝夫				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標1「移動時間」について、どのような交通環境で計測したのか明確にした方が良いという意見があった。→計測方法を明確にすることで了承を得た。 ・指標2「居住人口」について、「下げ止まり傾向」となっており、目標未達ではないかという意見があった。→花巻市内全体の人口減少幅に比べて、対象地区の減少幅が小さいことから事業成果があったことを説明し、評価結果の了承を得た。 ・指標3「歩行者数等」について、評価値を平成21年に設定しているが良いのかという意見があった。→平成22、23年の調査は天候が悪く、平成18年従前値の計測条件と合わせるため、天候の良かった平成21年のデータを採用したことを説明し、評価結果の了承を得た。
	実施過程の評価	・特になし。
	効果発現要因の整理	・特になし。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、インターネット等により、市民にわかりやすく公表されたことが確認された。
	その他	・下巾鍋倉線等、道路整備に伴い、交通環境が悪化した箇所もある。地域内ネットワーク全体で問題箇所の整理・確認も必要であるという意見があった。 →交通量推計・予測を行った結果、不動大橋で混雑する状況は見られたが、他に混雑するところは見られなかったと答弁。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・下巾鍋倉線の整備は、花巻駅までだけでなく、駅周辺地域へのアクセス性向上にも寄与している意見があった。→添付様式5の達成されたことに反映することで了承を得た。 ・上町花城町線、城内大通り線の道路整備については、整備する区工・区間を明記する意見があった。→様式2-2の今後のまちづくりの方策に反映することで了承を得た。 ・中心市街地の県立病院跡地などの大規模空き地の活用に対する意見があった。→ご意見として伺った。 ・地域コミュニティと協働・連携した「まちづくり」が行えるように環境整備を求める意見があった。→ご意見として伺った。 ・関連計画(まちづくり構想等)とのつながり・位置づけを明確にして欲しいという意見があった。→ご意見として伺った。
	フォローアップ	・フォローアップは、従前値の計測時と同じ条件下で実施するようにとの意見があった。
	その他	・隣接市町村との協議・調整も行う必要があるとの意見があった。→ご意見として伺った。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策では、地域コミュニティとの検討・協議できる「場」を設置する等、地域と行政の協働で実施する必要があるとの意見があった。→様式2-2の今後のまちづくりの方策に反映することで了承を得た。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「都市再生整備計画評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

社会資本総合整備計画

はなまきちゅうおうちく
花巻中央地区都市再生整備計画

平成24年2月22日

いわてけん はなまきし
岩手県 花巻市

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	岩手県	市町村名	花巻市	地区名	花巻中央地区	面積	950 ha				
計画期間	平成	19 年度	～	平成	23 年度	交付期間	平成	19 年度	～	平成	23 年度

目標 大目標 花巻駅周辺と中心市街地及び北上中部地方拠点都市地域(花巻南産業文化交流拠点)が連携して活力と賑わいあふれ、定住、交流の一体感のあるまちづくりのため、道路網のネットワークの形成と都市機能の充実、環境整備により、魅力あるイーハトーブの街づくりを推進する。 目標1 花巻駅周辺の整備(街路、商業施設、)により、賑わいと活気を戻し、中心市街地と相互に連携しにぎわいを再生する。 目標2 居住環境を整備し、安心、快適、安全、円滑な市街地を形成する。 目標3 花巻南産業文化交流拠点区域の良好な居住環境の形成のため、道路整備を中心としてまちづくりの推進を図る。
--

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 花巻市は岩手県のほぼ中央に位置し、四季折々に多彩な姿をみせる豊かな自然と、先人の努力により育まれてきた貴重な歴史的・文化的遺産や恵まれた交通条件、資源を有しています。産業、文化の拠点としての役割を担って特に、高速交通網の充実はめざましく東北自動車道、東北新幹線、花巻空港、沿岸部へ接続する横断道路の整備など交通の要衝となっています。本市の街づくりは、昭和23年から戦災復興を目的とした土地区画整理事業をはじめ、その後市街地周辺部の土地区画整理事業として約400ha施行しています。花巻駅前、かつて東北本線と釜石線が交差する旅客・輸送の要衝として賑わいを見せていましたが、自動車交通の発達や、東北新幹線新花巻駅の郊外への開設により花巻駅利用者減少し、駅前商店街の活力も低下しました。このような現状から危機感が高まり、花巻駅周辺開発の機運が盛り上がりました。新しい都市拠点としての市街地の整備と既存中心街地の再生を一体的に行なうことを目的とした「定住拠点緊急整備事業」が導入され都市基盤整備事業に着手しました。一方、市の南部に位置する花南地区は、平成5年度に北上中部地方拠点都市地域として指定を受け、文化産業都市の実現に向けた研究開発、知識、技術及び機能等産業高度化支援機能の集積形成を担う「花巻南産業文化交流拠点」として位置づけられました。花巻駅周辺、花巻南産業文化交流拠点から既存中心市街地へ交流人口を誘導できるように整備とネットワーク網の整備も共に着手しました。現在では、都市内環境に潤い、安らぎ、安心そしてふれあいの場が広がるよう宮沢賢治の作品をデザインモチーフに、快適な空間を創出するよう整備を進めているところです。現在、事業を継続して推進し、活力と賑わいを取り戻すまちづくりを進めておりますが、超高齢化社会を迎え、財政状況も厳しい折今後の事業の進捗には集中した、効果の発揮することが求められています。平成18年1月1日に花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町の4市町が合併し、新・花巻市として歩みはじめました。「早池峰の風薫る、安らぎと活力に満ちたイーハトーブはなまき」を新市の将来像として官と民の英知を結集し、理想郷の実現を目指しています。
課題 1. 花巻駅周辺の区画整理事業等により拠点整備を行なったものの民間による商業施設は経済情勢等により進展がなく現在までに至っている。再度活性化のため未利用地の活用、にぎわい拠点づくりのための都市機能を確保することが商店街からも求められている。花巻西地区区画整理地内の商業地からの花巻駅までのアクセス利便性を図る街路整備が必要である。 2. 国道4号線を補完する南北を縦断する道路整備が未完成であるため連携するまちづくりに一体感がなかった。山の神藤沢町線は北上市に建設中の県立統合病院へのアクセス道路として整備が必要である。 3. 平成5年度に北上中部地方拠点都市地域指定を受けた花巻南産業文化交流拠点区域は区画整理事業、街路整備、交流センター、賃貸住宅等の計画で、全体計画156haの内23haの完成をしたが、定住と交流が促進される街づくりのため引き続き整備が必要である。 4. 区域内の環境に潤い、憩い、安らぎ、健康増進の場など、地域交流の空間づくりを目指す。

将来ビジョン(中長期) 1. 花巻駅は中心市街地の玄関として周辺地区の賑わいを創造するため区画整理事業を実施した経緯がある。駅周辺の拠点機能として商業施設の整備を行い、交流人口・定住人口の増加を図る。 2. 市内中心市街地に誘導するための広域的連携道路網として寄与するネットワークの整備を行なう。 3. 花巻南産業文化交流拠点区域の開発計画を誘導するため区域内の街路整備を中心とした骨格の整備を行なう。 4. 拠点区域、市街地の環境整備のため、下水道の整備、公園整備、水路整備、他関連施設の整備
--

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
移動時間	分	富士大学から花巻駅までのアクセス移動時間	交通の円滑性を計測する指標	12	18	9	23
居住人口の増加	人	区域内の居住者数	市街地居住者の増加を計測する指標	36,353	18	36,400	23
歩行者数	人	市街地における歩行者数(上町地内)	通行者の増加を計測する指標	3,189	18	3,200	23

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(花巻駅周辺及び中心市街地の賑わいの再生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前を含む中心市街地へ住民のアクセス利便性を図るため、下巾鍋倉線と山の神藤沢町線を整備する。 	<p>方針に合致する主要な事業</p> <p>下巾鍋倉線整備事業(基幹事業/道路) 山の神藤沢町線整備事業(基幹事業/道路)</p> <p>花巻駅前商業施設整備事業(関連事業) 上町花城町線街路整備事業(関連事業) 優良建築物等整備事業(関連事業) マンション建設事業(関連事業)</p>
<p>整備方針2(安心、快適、安全、円滑な市街地の形成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心、快適な通行ができる道路環境を整備する。 ・快適な地域コミュニティの場を提供するため、公園のトイレを水洗化する。 	<p>下巾鍋倉線整備事業(基幹事業/道路)</p> <p>都市公園トイレ水洗化事業(提案事業/地域創造支援事業)</p> <p>市営住宅建替・改修事業(関連事業)</p>
<p>整備方針3(花巻南産業文化交流拠点区域の整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良好な居住環境の形成のため、下水道の末端管を整備する。 ・道路整備に伴う排水量の増加に対応するため、水路の切り替えを行う。 ・無秩序な開発を防ぎ、良好な居住環境の形成を図るため、土地利用構想の検討を行う。 	<p>山の神藤沢町線整備事業(基幹事業/道路)</p> <p>下水道整備事業(提案事業/地域創造支援事業) 排水路整備事業(提案事業/地域創造支援事業) 都市公園トイレ水洗化事業(提案事業/地域創造支援事業) まちづくり構想策定支援事業(提案事業/事業活用調査)</p> <p>花南地区市道整備事業(関連事業) 公共下水道整備事業(関連事業)</p>
<p>その他</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくりについて 花巻市は、平成19年度に小学校の通学区域ごとに「小さな市役所」を設置し、各地域に合った地域づくりを推進することとしている。市民が、各地域ごとに自分たちが住むまちづくりの方向を自ら考え、行政が支援していくシステムとなっている。本計画の区域においても、事業期間中はもちろん、終了後も事業効果を高めることができるよう住民自治を支援し、更なるまちづくりが推進できる。</p> <p>○交付期間中の計画の管理について 交付期間中において計画した事業を円滑に進めるため、目標達成に向けて関係機関と協議しながら事業を進める。</p>	

